

■ 日 時 令和5年12月22日（金） 午後3時30分から午後5時30分

■ 場 所 港区役所 5階 501会議室

■ 出席者 別添の「出席者一覧」のとおり

■ 議事要旨

1. 開会

2. 議事

1) 第1回検討会の振り返り

- ・事務局より、第1回検討会の振り返りについて説明後、質疑。

【主な意見】

- ・地域住民等の意見の「保育所など子育て施設の充実」に関して。
⇒現状港区に待機児童はいないが、弁天地域には保育所がなく、マンション増加もあり、充実してほしいという声が上がっている。
⇒隣区からの流入で、多いほど良いという認識。

2) 弁天町駅周辺まちづくりビジョンの素案について

- ・事務局より弁天町駅周辺まちづくりビジョンの素案について説明。

【主な意見】

○「ニシの玄関口」の定義について

- ・「玄関口」とは、訪れる外国人を増やしたいということであれば関西国際空港等から訪れる人のベイエリア側の玄関口と捉える考え方、伝統や技術を見たいなどであれば大阪都心や周辺都市側における玄関口と捉える考え方の二つがある。
- ・弁天町がニシというイメージはなく、大阪のまちづくりグランドデザインに記載されているベイエリアの範囲がニシであるイメージであり、弁天町はそこに至る玄関口。
- ・「ニシ」の定義は、まちづくりグランドデザインに記載されている通りベイエリアであり、弁天町はベイエリアを館としての玄関口という位置づけと認識。
- ・歴史的に見ると、港があり、海外からの人や物や情報が都心に流れ込む玄関口。玄関口として外から様々なものが入ってきて形成された歴史・文化があるという点を強化していければ。
- ・大阪は江戸時代から東西通りを大切に考え、町屋の玄関は東西の通りにしか面していなかった。大正時代に大阪市区改正という都市改造で南北の通りを通して新しい軸を追加。コンセプトには、元々は海から陸であったが、陸から海への結節も加わったという形が表現できればよい。

○弁天町駅周辺に求められる「にぎわい」について

- ・外国人も多く、雑多な賑わいが混在していることが弁天町らしさ。国際的な視点は必要。
- ・にぎわいという観点ではまちを特徴づけるようなものが要素として大きくなっていく。どこにでもあるようなお店を持ってくる方が数字上は良いのであろうが、それ続けてしまうとそのまちならではの良さがなくなってしまい、わざわざ弁天町へ行かなくてもとなってしまう。今地元にある種やなくなってしまいそうになっているものを丁寧に拾い、それを核にすべき。
- ・神戸の埋立地にはカナディアンアカデミーというインターナショナルスクールがある。そこでは日本人と海外の親同士が話し合っている風景があり、そういった風景をつくるには、新しい文化・産業と古いものが混ざり合うような仕掛けづくりがハード面でもソフト面でも必要。

○コンセプト案について

- ・地域住民の声にあったみどりの観点を入れた方が良い。
- ・「掘り起こし」という言葉づかいは、「現状埋まっているものを見つけ出す」という意味とを感じるが、「新たに生み出す」や「既にあるものを育てる」視点も必要ではないか。
- ・産業も「掘り起こし」と合わない。多文化共生については、別項目とした方が良い。
- ・過去の街から未来の街に向けてつながるところのちょうど結節点に位置するのが弁天町の特徴。今までの人・文化・産業がどう新しい人・文化・産業と関わっていくのかの視点も重要。にぎわいを継続させるためには新しいことと今まちにあることの融合が大切。
- ・弁天町エリアは、新しい店舗・施設と、技術・食堂など下町の小さく昭和の空気を残したお店が共存。日本のものと外国のものが交流する場としてのパワーを秘めている。先日のコスプレイベントでは600人以上の若者が集まりSNSでたくさん発信を行っていた。彼らが求めているのは、そこでしか体験できないこと。若者が弁天町でしか体験できないこと、ごちゃまぜのパワーを押し出したい。
- ・いろんなものがやってくるのを受け入れるまち、発信するまち、チャレンジできるまちにしたい。
- ・港区では大阪ベイタワーのアトリウム広場や木のファニチャー作りなど公共空間を活かすことに注力されている。色々な主体が持つ様々な空間をみんなで使いチャレンジする、というマインドを持っていることがこの地域の強み。
- ・安全安心については、高潮被害により港区民のDNAに染み込んでいる要素。
- ・市岡商業高校跡地やベイエリアから周辺エリアに広がること、その広がる場として広場のような空間を作ることは有効。古い町並みや町工場をリノベーションして活用し、ターゲットを絞りすぎずにまちづくりを考えていくのが良い。
- ・過去と未来、内と外の対比があるまちである。
- ・みどりや水のテーマは重要だと感じており、3つにこだわらずにテーマを増やし、もっと詳しく記載した方が良い。
- ・必ずしもビジョンに書いたものを絶対に実現しないといけないと考えず、みんながワクワクするようなビジョンにできれば良い。

○まちづくりの基本的な考え方（ゾーニング・回遊性向上）について

- ・古い地図を見ると、港と内陸部を繋ぐ軸がはっきりしていたが、高速道路や南北道路等の新たな動線が作られたことで軸線が不明確となり、まちに何があるのかどの方向へ広がってまちがつながっているのかが読み取りづらい状況。昭和の時代に新しくできた大規模な住宅地をリノベーションするとなった時には、昔あった軸線の強化を打ち出すことで「港区らしさ」が蘇り強化されつつ、この地域の位置づけが明確化されることを期待する。川沿い・海沿いの主要な拠点を繋ぐなど、歴史や文化といったアセットを活かしつつ、昭和の開発で薄れてしまったイメージを修正していくことができれば良い。
- ・歩きたいと思わせる仕掛けづくりなどウォーカブルの視点が必要。
- ・港区内の移動は半分以上が徒歩と自転車。自動車は非常に少ない。しかしそれに対応するインフラがつながっておらずネットワークの課題あり。大型車がまちなかを走るイメージがあるため、子育て層が住むには安心感が不足。利用実態を踏まえれば歩行者や自転車利用者のための東西軸の強化は重要。

3) その他

- ・次回候補日の調整。

3. 閉会

以上